

# バクの家での新たな取り組み



## 【はじめに】

バクの家での2018年度の事業目標に「仕事のプログラムを増やす」をあげました。そこで、利用者みんなで参加できる作業はないかと考え、内職とクッキーの外販を新たな作業に取り入れしました。



## 【内職について】

内職作業を取り組んだきっかけは二つあります。一つ目は、事業所内での作業が少なかったことです。二つ目は、場所移動することが難しい利用者もいて、職員間で何か事業所内でも取り組める作業はないかと考えたことです。その結果、内職を新しい作業に取り入れることにしました。内職作業は、袋詰や箱作り、台紙折り等があります。毎回同じ物ではなく、その時によって、作業内容が違います。内容が異なることは一長一短です。メリットは、様々な作業ができることで飽きることなく、集中して作業に取り組めることです。一方、デメリットは、作業に慣れてきたのに、また別の作業を覚えなければならないことです。

手探りで、新しい取り組みをしてきた中で課題が見つかりました。それは、利用者により得意不得意があり、作業に取り組む利用者に偏りがみられるようになったことです。

そこで、私たち職員は試行錯誤し、このような作業配置を考えました。それは、『一通りの作業ができる利用者』と、『一通りの作業をすることは難しいが、一部の作業はできる利用者』でペアを組み作業することです。この配置をすることによって、利用者みんなが自分の役割を果たそうと、積極的に作業に取り組む事が出来ました。



## 【クッキーの外販について】

クッキー作業には、

- ・ネタ作り(バターや砂糖、たまご、小麦粉を混ぜ、生地をめん棒で伸ばす)
- ・型抜き(生地を型で抜く)
- ・袋のシール貼り
- ・袋詰め(数を数えて袋に入れ、乾燥剤を入れる)
- ・納品



以上5つの作業があります。

作業工程の複雑さにより、重複して作業に入ることができる利用者、1つの作業にのみ入ることができる利用者がいます。皆さん意欲的に「お仕事がんばりたいです」「クッキー作業に入りたい」と希望があります。しかし、工房に入れる人数には制限があります。

そこで、職員間で利用者の思いに添えることができないか考え、全員が参加できる外販を取り入れてみることにしました。外販の話をするとうれしく「クッキーを売りに行きたい」と顔を輝かせて立候補される利用者もいました。「バクのクッキーいかがですか」「手作りクッキーいかがですか」皆さん張り切って大きな声が出ています。クッキーが売れるとうれしく「ありがとうございました」と笑顔いっぱいです。

外販することで、地域の方々に利用者の働く姿を見てもらうことができ、顔も覚えてもらえるでしょう。今後、地域の方々と利用者とのつながりにもなればと期待しています。

## 【おわりに】

やっと寒い冬も過ぎ、バクの家前のガランド親水公園や遊歩道にはウォーキングをする方、お子さん連れの方など多くの地域の方が行き来する季節となりました。「クッキー販売しています」の宣伝も行い、利用者・職員一丸となり、これからも色々な作業に取り組んでいきたいです。